



## 牛さんも同じだね

出雲市立湖陵幼稚園（島根県出雲市）

[3歳児]

＜近隣の牛の肥育農家で、牛を間近で見たり、触ったり、臭いを感じたりするなど様々な感覚を使って牛と親しむ＞

子どもの姿	子ども=C	保育者=T	◇保育者の受け止め	◆環境の構成と援助
<p>○畑の中に牛舎が見えてくる。 C「牛さんのお家もうすぐ？」 T「もうすぐだよ。あそこに見えるよ」 C「ホントだ！もうすぐだ」 C「う～なんか臭いよ」 C「臭いよ 臭いよ」 C「うんこの臭いがするよ」 「臭い 臭い」と騒ぎ出す。</p>			<p>◆近くの牛舎に出かけ「牛への親しみを求めて欲しい」という思いから、3歳児に初めての牛見学を計画する。 ◆春の自然に触れながら、牛との出会いを楽しみにできるような声をかける。</p>	<p>◇「臭い」と騒ぎ出したため、子どもたちの思いを出す場が必要と考える。 ◆道端で足を止め、臭いを嗅ぎ、臭いのする方を見ながら話す場を作る。 ◇牛も自分も同じようにうんこをする、自分も牛も同じということに気づき、自分と牛を重ね合わせて考えることができた。 ◇自分が嫌だと思うことは、牛も同じ気持ちなんだということに気づき、牛への思いを膨らませることができた。</p>
<p>○話し合いをする。 T「誰のうんこの臭いかなあ…」 C「牛さんのうんこの臭いじゃない？」「牛さんだ！」 T「牛さんもうんこするんだね」「みんなは？」 C「うんこするよ」 T「牛さんもみんなと同じだね」 C「うん 同じ」 T「牛さん うんこ 臭い 臭いって言われたらどうかなあ？」 C「うんこ 臭い 臭いって言われたら嫌だ」 <b>共感</b> C「ぼくも嫌だもん」 T「そうだね、牛さんも嫌だね」</p>			<p>◆牛を刺激しないように、静かに見学するように促す。 ◆怖がる子は、保育者の側で見たり餌を一緒にあげたり、少し離れて見たりする。 ◇牛の大きさや動きを真剣に見入っている。体のつや、鼻の濡れた感触、毛の柔らかさなどを見て触れて、様々な感覚・感性で感じとっている。</p>	<p>◇幼稚園に入園し、母親から離れ寂しい思いをした自分の気持ちを子牛に重ね合わせている。 ◇牛も自分達と同じようにうんこやおしっこをすることを目で見て実感する。牛のうんこの大きさ、尿の量に驚き、すごい！という気持ちを抱いている。</p>
<p>○牛舎に到着、牛を見学する。 C「牛さん大きいね」「黒いよ」 「目が大きいよ」 <b>気付き</b> C「ごはんもぐもぐ食べてるよ」 C「よだれが出てるよ」「鼻も濡れてるよ」</p> <p>○体や顔を触る <b>感触</b> C「毛が生えてるよ」「やわらかいね」</p> <p>○子牛を母牛の小屋から出して見せてもらう C「かわいいね」「赤ちゃんなのに大きいね」 C「お母さん牛寂しくないかな」 <b>牛への思い</b> C「赤ちゃん、お母さんに返してあげようよ」 T「そうだね、お母さんの側がいいね」「皆もだね」 C「牛さんおしっこしてる！」「いっぱいあるね」 <b>驚き</b> C「うんこがあるよ」「大きいね いっぱいあるねー」 C「ぼくのうんこより大きいよ」 C「牛さん、いっぱい食べてうんこもすごいな」 <b>認め</b></p>				

## 考察

牛を実際に目で見て触れて、大きさや体の様子、動き、臭いや感触を実感したことは、3歳児にとって貴重な体験となった。体験を通して“牛も自分達と同じ”ということに気づき、牛を身近な生き物に感じ、「牛さんすごいな」という気持ちを抱くことができた。「自分も嫌だと思うことは相手も嫌なんだ」と自分と重ね合わせることで、相手の思いを実感し、自分と同じ大事な存在として受け止めることにつながっていった。

## ポイント

牛を見て「大きい」「黒い」「ごはんもぐもぐ食べてる」「よだれが出てる」「鼻も濡れてる」と言い、更に触れて「毛が生えてる」「やわらかい」と言うなど、3歳児が感性を發揮し、感じたことをいろいろな言葉で表現しています。この姿は、「臭い」という感覚により閉じかけた子どもの「科学する心」を、保育者が「誰のうんこの臭いかな」「牛もみんなと同じだね」という言葉や行動により開き、興味関心を高めたことで引き出されました。子牛にはより親しみをもち感じ、当初は嫌がっていた排泄物にも興味を向けています。まさに様々な感覚・感性を働かせて、感じ取ったり気付いたりしたことを表現することで「科学する心」が育まれています。